

令和5年度 第2回  
東京都地域活動に関する検討会  
速 記 録

令和5年12月6日（水）

東京都庁第二本庁舎1階 二庁ホール

午後 1 時30分開会

○地域活動推進課長 皆様お待たせいたしました。若干定刻を過ぎておりますが、ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催いたします。

私は、事務局を務めます、東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課長の沼倉と申します。本日はよろしくお願ひいたします。着座にて失礼させていただきます。

本日の検討会ですが、お手元配付の資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されておりました、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただきます。御異論なければ、検討会の議事録も公表させていただくことを御了承いただければと思います。

なお、本年 7 月に開催いたしました第 1 回検討会の議事録につきましては、東京都のホームページで公表させていただいておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

それでは、ここから、検討会設置要綱第 5、第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化スポーツ局都民生活部長の柏原が進行させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○座長 皆様、こんにちは。お忙しいところお越しいただきまして、ありがとうございます。本検討会の座長をやらせていただきます生活文化スポーツ局都民生活部長の柏原でございます。よろしくお願ひいたします。

では、ここから座って進行させていただきます。

本日は、お忙しいところ、本当にありがとうございます。

この会は、東京の抱える様々な課題を皆様と一緒に解決するために、各町会・自治会連合会の皆様方と、それから行政区域を超えて都の行政課題や皆様方の取組を共有する、あるいは意見交換を行うことが重要と考えておりました、平成29年 3 月に設置したものでございます。本日も様々なデータ等を提供させていただきますが、ぜひ忌憚のない活発な意見交換をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、続きまして、配付資料について事務局から確認をいたします。

○地域活動推進課長 配付資料につきまして、次第のところを書いておりますもの 4 点をお配りしております。資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」、資料 2 「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」、資料 3 「座席表」、資料 4 「事前アンケート集計結果」の 4 点をお配りしておりますが、過不足等ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

配付資料は以上となります。よろしくお願ひいたします。

○座長 資料確認を終了しました。

続いて、新しく委員になられた方を御紹介したいと思います。本年7月の令和5年度第1回検討会から2名の委員の方が交代されております。本来であればお一人お一人から自己紹介をお願いするところですが、時間の都合もございますので、お手元の資料2の委員名簿を御覧いただきまして、※印の表示をもって代えさせていただきます。

お名前だけ御紹介させていただきます。お一人は中央区の高橋会長様で、本日は所用により御欠席でございます。もうお一人の方は北区の下山会長様でございます。下山様いらっしゃいますでしょうか。御起立してお願いいたします。

(下山会長立礼)

○座長 よろしくお願ひします。

なお、本日は、資料2にございます委員の方のうち、2番の中央区さん、4番の新宿区さん、8番の江東区さん、12番の世田谷区さん、16番の豊島区さん、19番の板橋区さん、29番の調布市さん、31番の福生市さん、33番の多摩市さん、34番の稲城市さん、38番の新島村さん、そして39番の大崎相談役様、以上の12名の方が欠席となっております。

それでは、本日の次第に入らせていただきます。

本日の議題は、「コロナ5類移行後の町会・自治会活動の変化について」でございます。本年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴いまして、町会・自治会の皆様のほうで様々なイベントを本格的に再開されているところがたくさんあるとお聞きしているところがございます。そこで、本日は、5類移行後の各区市町村の連合組織または加入されております町会・自治会の状況や取組例などにつきまして意見交換を頂きたいと思っておるところでございます。

まずは、皆様に御協力を頂いて事前にとらせていただきましたアンケートの結果について御報告ということで、お手元の資料を御覧いただきながらお聞きいただければと思います。

それでは、事務局より説明をさせていただきます。

○地域活動推進課長 それでは、資料4の「事前アンケート集計結果」を御覧いただきながら話を聞いていただければと思います。

まず、説明に入る前に、区市町村の地域活動推進担当の方を經由しまして今回の事前アンケートに御協力いただきまして、ありがとうございました。コロナ5類移行後の町会・

自治会活動の変化についてということで、本年5月に感染症法上でコロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴いまして町会・自治会のイベントが本格的に再開したというふうな認識を持っておりませんが、その件について各区市町村の皆様にアンケートを取らせていただいております。今回、地域の底力発展事業助成についても後ほど都町連の常任理事会で御説明をする予定でありますが、そちらの助成の申請件数も昨年に比べて非常に増えておりまして、地域において活動が再開されているという認識を持っております。

それでは、まず資料の2ページ、1、町会・自治会のお祭り・盆踊り等のイベントの状況について御覧いただければと思います。1つ、まとめとしまして、38区市町村全てで活動が再開した町会・自治会が多いというふうな回答を頂いております。質問の項目としては、縮小・取りやめた自治会が多いとか、形を変えて実施している町会・自治会が多いという設問を設けさせていただいたのですが、全ての区市町村から活動を再開した町会・自治会が多いというような回答を頂いております。

ただ、具体的な中身を拝見しますと、一部の町会・自治会では活動の縮小や変更が見られるような回答も頂いております。具体的な中身をお話いたしますと、活動再開の内容としましては、コロナが感染法上5類に移行したこと、また、区の補助金を用意したことで活動が再開したというような御意見も頂いております。

また、一部活動の縮小があった例としましては、宿泊を伴う研修・視察を日帰りの開催とし、規模を縮小した団体があったという御回答も頂いています。納涼盆踊り大会を実施した町会・自治会の中には、接待を行わないところがあったというお話もお聞かせいただいております。その他各種イベントについては、日数や回数、参加人員などを抑え、段階的に戻していく対応をしている町会・自治会もあったという御意見もございました。

また、一部形を変えて実施した例としましては、単独町会の開催から複数町会での合同開催などを工夫して実施したというお声も聞いております。

次のページ、2のコロナ5類移行後のイベントへの住民参加状況について御覧いただければと思います。こちらは円グラフで描かせていただいておりますが、設問としましては、5類移行後の町会・自治会のイベントへの住民の参加状況についてお伺いするような設問になっております。1はコロナ禍以前よりも参加者が増えた、2はコロナ禍以前と同程度である、3はコロナ禍以前よりも参加者が減った、その他という形で御質問させていただきました。増加が14件、同程度が16件、減少が1件、その他が7件という回答を寄せていただいております。

住民参加が増加した例としましては、三、四年ぶりの開催により地域住民の参加が増加したという御意見ですとか、地域住民がお祭りや運動会などのイベントを待っていた雰囲気があり、地区自治会連合会主催の運動会ではコロナ禍前より参加者が増えているという報告があったというような御意見も頂いております。

逆に住民の参加が減少した例としましては、次の4ページでございますが、祭りへの参加を小学校に依頼したけれども、新型コロナの影響により金管楽器の演奏の練習ができなかったために参加できないなどの状況が見られた。また、中学校の吹奏楽部の部員数も従来よりも減少している。その結果として、児童・生徒の保護者の参加が減っているというお話も頂いております。コロナ感染で部活動への影響があったことから、本来は祭りへの参加をしていただいていた部活の関係の方たちが参加できないような状況があったというお話もお聞かせいただきました。また、新型コロナに伴い活動を自粛した踊りなどの趣味の活動で会員の減少が見られ、その結果として盆踊りなどの指導者を近隣の自治町会に依頼するなどの対応をしたというお話も聞いております。

次のページを御覧いただければと思います。3、5類移行後の全般的な町会・自治会活動の変化でございます。活動を再開した例としましては、コロナ禍以前に行われていた町会のイベント等が催されるようになった。従前の日常に戻ったことについては、多数の区市町村からこのような御回答を頂きました。また、3年ぶり、4年ぶりに復活した行事も多く見られ、おおむねコロナ禍以前と同程度の参加者数となっているという話もお聞かせいただいております。コロナ禍で書面開催やオンライン開催になっていた総会などの会議が対面形式や会場形式で再開されたということで、以前と同じような活動ができるようになったという御意見もお聞かせいただきました。

また、新たなイベントを実施した例としましては、制限がなくなったことで、役員の中でも手探りながらいろいろなイベントを考え、新イベントが多くなった。参加する人たちも想定より多くなっているという御意見もお聞かせいただいております。

活動縮小としましては、総会なども書面で行うようになって、個々の会員にとって自治会活動に距離感を持つものが増えたという中身がありました。

また、担い手不足・活動内容の継承への影響ということで、参加者の増加により運営の人手不足を実感している町会が多いという意見も頂いております。コロナ禍以前実施していたイベントを再開するなど、コロナ禍前の活動水準に戻す町会・自治会がある一方で、役員の高齢化等担い手不足により、従来行ってきた事業実施に苦慮しているケースがある

というようなお話も頂いております。

デジタル活用に関しては、掲示板や回覧板などのこれまでの広報に加えて、ホームページや電子回覧板、公式LINE等デジタルを活用して情報発信を一部の町会では開始したというお声も頂いております。また、役員間の連絡などはLINEグループで行っている自治会・町会も多くなってきたという経過がございました。

次の7ページはその他ということで、こちらはコロナ禍以前と比べて経済状況等の変化を受けた上で、町会活動をやっている御本人の仕事が忙しくなって、関わり方が変化しているような場合があったというお話もございました。

次の8ページ、コロナ禍において行った活動の継続の工夫ということで、こちらもデジタル活用ですけれども、都の助成制度を活用し、デジタルツールを使い、これまでより効率的に町会を運営している町会がございました。地区自治会連合会の公式LINEの周知について、イベント、運動会でLINE登録者にLINEのクーポン機能を活用してプレゼントを配布し、イベント当日は150人ほどの登録者を増やしたというお話も頂いております。また、Zoomの会議ではなかなかニュアンスや感情が伝わりにくく、対面での会議を望む声が多かった。一方で、時間の制限が少ないことや往復の時間短縮などメリットを挙げるような人もいたということで、デジタル活用に伴ってのメリット、デメリットがあったという御意見も頂いております。

また、感染対策の工夫なども、消毒ですとか時間の短縮、換気の徹底、ソーシャルディスタンス等、様々な取組をやっていただいたようなことも御意見を頂いております。

次のページをおめくりいただきまして、その他の中では、屋外でのイベントの活動ができないので、町会・自治会のPR動画を作成したというお話ですとか、回覧板をやめて行政からのお知らせを盛り込んだ町会通信を配布し始めた町会もあるというようなお話も頂いております。

最後、5、工夫で町会・自治会活動がよりよくなった点ということで、活動の見直しですとか、デジタルの活用ということで、こちらもスマートフォンの普及も相まって比較的高齢者の役員の間でのLINEなどを使った連絡や情報交換等も活発になったというお話も頂いております。また、オンライン化を図るに当たって町会の若手層の力が必須であるため、若手が頼られる機会が増えているというような話を頂いております。町内会の公式LINE開設の効果が大きかったという話も頂いています。令和3、4年度に地域の底力発展事業助成を受け、連合会のホームページ作成と地区自治会連合会及び自治会・町会向

けホームページ作成支援講習会を実施したということで、ホームページ作成支援ボランティアにはサーバーやコンテンツを検討してもらって、講習会を30回開催し、情報発信力が向上したと感じていらっしゃるような御意見も頂きました。また、町会・自治会の魅力や加入メリットをまとめた短尺のPR動画を作成し、庁内で放映することで幅広い世代に向けた町会・自治会の魅力発信ができた。PR動画を視聴し、新規加入世帯が生まれたというような御意見も頂いております。

以上、こちらでアンケートの結果を御説明させていただきました。この中で、私が一通り御説明をしたのですが、各区や各市から詳細なお話をお伺いできればと思っております。まず、幾つかの区や市の方からこの中身についてお話をお伺いできればと思っています。

ちょっと戻りますけれども、2の活動再開の内容ということで、コロナが感染症法上の5類に移行したこと、区の補助金を用意したことで活動が再開したという件ですが、文京区の方から、御質問をいいですか。この辺りのことですかデジタルのことも含めてですけども、コロナ禍での変化についてお話をお伺いできればと思います。

○文京区 私、文京区町会連合会会長の諸留です。

それでは、我々の文京区、全部が全部ではないですけど、コミュニティに関するお祭り、盆踊り、餅つき会等、単一町会・自治会の活動として再開や新規事業を行っているところが比較的多くなってきているということをお報告させていただきます。

コロナ感染法上の位置づけが5類になったことが大きく影響していると思いますが、先ほど話もありました、区のほうで令和4年度から実施していただいている追加補助金がよい影響を与えているのではないかと考えております。この追加補助金ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により停滞している地域コミュニティの活性化を図るため、町会・自治会事業補助金、各町会・自治会が実施する事業の補助金、毎年、各町会の人口に応じて補助金を頂いているのですが、さらに追加で別枠一律10万円。これは町会の規模によらずに一律10万円助成していただきました。補助金の使途もコミュニティ推進に関する事業に限定されておりますが、1番、中止していた事業を再開する場合、2番、これまでやったことのない新規事業を実施する場合、3番、令和4年度に再開または新規で実施した事業を令和5年度も継続して実施する場合の3区分で申請して実施されました。まだ年度が継続中ですけども、この追加分を活用することで活動を再開した町会・自治会は多くあると思います。

最後に、令和4年度と5年度の活用数を御報告いたしますと、区内154町会・自治会が

ありますけども、令和4年度は110町会で延べ121事業がこれを利用されたと。令和5年度はまだ終わっていないので、10月1日現在で活用町会等の集計は延べ95事業となっております。

以上が文京区町会連合会からの報告でございます。

○地域活動推進課長 御報告いただきまして、ありがとうございます。区の制度などを活用しながら活動が広がっていったというお話でした。

また、コロナ5類移行後のイベントの住民参加の状況ということで、今回調査をしてみても私どもも驚いたのですが、以前よりも逆に増えたという結果が出たところで、皆さん、町の中でこのイベント等をやることを非常に待ち望んでいたことが非常に効果を生じたということで、この点について大田区の方から御説明を頂ければと思いますが、よろしいでしょうか。

○大田区 大田区のほうでもいろいろと自治会活動を行っておりますけれども、大田区の場合は18連合会、218の自治会・町会がございますが、おおむねこの連合会・自治会においても参加者は増えたところでございます。その中で、大田区の自治会としてもアンケートを取った中で、やはり皆さん、コロナ禍で自宅でのひきこもり、または人のお付き合いがなかなかできなかった中で、今年度5月に5類に移行したということで、一気に皆さんが表へ出るようになりました。その中でも特に子供たちが、自分の地域だけではなく、隣の地域とか、そういうところにも出かけながらいろんなイベントに参加された。また、それに伴って親も一緒に付き添って参加されたところで、かなり増えております。

特に大田区の場合ですが、10月の体育の日の前後2週間をいろいろな運動のイベントとして大田区のほうからイベント助成金が出るんですけれども、18の各自治会連合会がそこに合わせて運動会とかいろいろなイベントを行っております。そこでも各連合会の中でやはり人が増えていると。一部の地域では、例年コロナ禍前ですと平均すると1,000～1,200名の参加が今年は1,400～1,500名来て、参加賞とかそういうものが足りなくなったという声なども聞いております。また、単会においても子供のイベントをやっておりますけれども、一部の自治会では、令和元年度辺りだと900～1,000名が一つの目安だったんですが、それが1,200～1,300名来ている。特に子供さんたちがそういうお祭りとかイベントを楽しみに待っていたということが今回顕著に表れております。

その中で自治会としましても、どこの自治会も同じですけれども、高齢化が進んでおりましてなかなか担い手が少なくなっている中で、各地域として、PTAはもちろん



協力していただけますが、学校単位でお父さん方がPTAの下部組織としておやじの会を組織しております。その方たちが積極的に各単会、連合会の行事に参加してくれまして、今まで高齢化で人手不足になった中で若手の方々の協力を得ることができたところが大きなところでございます。

デジタル化もよろしいでしょうか。大田区としまして、コロナ禍でいろいろな会議も持てない中でデジタル化を進めようと、大田区自治会連合会で、コロナ禍でできることは何だろうというところで、東京都の地域の底力発展事業助成を令和3年度、4年度に活用しまして各自治会のホームページを作成させてもらいました。ホームページに詳しい方——連合会の役員というと皆さん高齢者が多いものですからなかなかデジタルに強い方がいませんので、若い方たちに声かけをしましたところ、24名の方に手を挙げていただきました。会議はコロナ禍だったものですからオンラインで行いましたけれども、ホームページを登録する場所、サーバーですね。それからデザイン、情報の中身、コンテンツ、こういうものを話し合っ、使い勝手のいい、簡単で使いやすいもの、費用が安価でできるものを考えてもらいました。それで、区内のNPO法人にも協力してもらって、連合会のホームページを作成し、同時に単会向けホームページ支援講習会を開催いたしました。地域ごとの代表説明会の後、二、三団体ごとに個別の支援講習会も開催して、計17回、78団体が講習を受けました。

続いて、令和4年度には自治会連合会と18の地区自治会連合会にパソコンを整備しました。これも東京都の助成金を活用しまして、パソコンを用意しました。自治会連合会の中ではまだまだ発展途上で情報の掲載が少ない中で、今後どうやってそれを充実させていくかというところで、各18地区自治会連合会にもパソコンを配布いたしまして、その中で取り組んでもらったところでございます。東京都の地域の底力発展事業助成には私どもとしては非常に助けられております。そのような中で、一部の自治会や連合会では公式LINE、Instagramなどを活用した情報発信を始めるなど、デジタル事情は一気に進んでおります。

○地域活動推進課長 大田区さん、御説明、ありがとうございます。大田区さんから当方の助成を活用いただいたというお話も頂きました。ありがとうございます。

今御発言の中で、参加賞が足らなくなったぐらい参加人数が増えたとか行事が増えたというお話ですとか、あと、地域のおやじの会、父兄の若い方が単一町会の行事に御協力いただいたというお話がありましたが、ほかの区市町村の方で、おやじの会ですとか地域の

そのような団体が協力されたとか、参加賞が足らなくなって困りましたみたいな動きがあったらお聞かせいただきたいんですが、どこかほかの区市町村の方でそのような動きとかございますか。

○江戸川区 江戸川区の関口といいます。今お話を伺って、ああ、私たちと同じような、やはりおやじの会をつくって活動しているんだなと感じて、皆さんと一緒にだなということできうれしく思っております。

江戸川区では、子どもたちを育てようということで、町会挙げて子ども会のイベントに大いに参加しようということで今活動しております。そして、子ども会も単一の子ども会ではなくて、3つ、4つの子ども会が合同でイベントをやったらいいんじゃないかということで皆さんに頑張ってもらっていただいております。そのときに参加した保護者の方々には「いずれ町会にも入ってやってくださいよ」とお願いをしております。

そして、話が少しそれますが、令和元年に台風19号が東京を襲ったときに江戸川区では斉藤猛区長が江戸川区で初めて避難指示を出しました。各小学校の避難所に2万人近くの方が避難されたんですけれども、そのときに避難された方々の声を聞くと、やはり町会役員の方々が避難所で活躍、活動しているその姿を見て安心したと。「我々、町会に入っていてよかったな」と。知っている顔の方が避難所で一生懸命やってくれているということで安心したということで、町会・自治会がそういうときに一番活躍できる、皆さんに安心を与える組織だと思っております。

江戸川区は、元区長の中里喜一さんがよくお祭り区長と言われるぐらいお祭りの大好きな区長さんでございまして、令和5年は久しぶりに花火大会を開催することができました。市川と合わせて100万人以上の大勢の方々が花火に参加され、お天気にも恵まれ、素晴らしい花火大会ができました。それから、10月には都立篠崎公園において、幸いにも江戸川区には篠崎公園という大変大きな都立公園がございまして、そこで江戸川区民まつりを開催させていただきました。50万人かな、55万人ぐらい出たのかなと言われるぐらい大勢の区民の方、近隣の区民の方もそうですけれども、参加していただいて、やっぱりお祭りはいいな、知らない人とでも声を掛け合って、この町に来てよかったな、ここに住んでいてよかったなと思えるような関係をお祭りによってつくることできるんじゃないかと思えます。

江戸川区には275の町会・自治会がございまして、各地区に8つの連合体もございまして、各連合体におきましても地域まつりということで各地域において行っております。各地域

におきましても、私は松江地区なんです、その松江地区でも約15万人のお祭りの参加者が出て、お祭りというのはいいね、やっぱりこの町に住んでいてよかったねと言えるような地域社会づくり、安全・安心の地域社会づくりに取り組んでいるからこそ、皆さんに協力していただいているんじゃないかと思います。

そして、江戸川区は刑法犯認知件数が多いことから、町会・自治会が町会費の中から防犯カメラをつけようということで、各町会では、ここぞというところに防犯カメラを設置して、犯罪を抑止しようということで頑張っています。江戸川区は、海拔ゼロメートル地帯が70%という平坦な土地柄もあり、自転車の盗難が一番多い状況です。そこで、防犯カメラをつけることによって自転車の盗難を防げるのではないかなということで、今我々は頑張っており取り組んでいます。地域の方々が安心して暮らせるまちづくりの一端を担うのが町会・自治会ではないかと思いますので、その地域力で我々一生懸命頑張って、行政の力もお借りして努めてまいりたいと思います。

今日久しぶりに、皆さんからいろんな意見が出て良かったです。せっかくこうして東京都内、大勢こうやって素晴らしい方がお見えの中で、ただ行政からの報告を聞いて帰るだけではなくて、皆さんがその地域においてどういう活動をしているのかという御報告を、この会議僕は初めてではありませんが、他区の状況についてお話を伺うことができ、出席してよかったと感じております。

吉成会長、これからもよろしくどうぞお願いいたします。

○地域活動推進課長 江戸川区さん、ありがとうございます。今、会長がお話しされたように、久しぶりのお祭りで、お祭りはよかったな、地域にいてよかったなと実感されたというお声を結構聞かれたというお話でしたけれども、久しぶりの祭りの再開でこういう話とか、こういうふうにご地域の方からお話とか感想を聞かれたことがもしあれば、その辺りの御発言はないでしょうか。

○品川区 品川区の金子です。うちの品川地区は、年中行事として神社の祭礼、盆踊り、宿場まつりと1年中何かしらイベントをやっているような地区なんです、この4年間は自粛をしてまいりまして、その間にマンションが相当増えたんですよ。ところが、そのマンションに入った方がどなたも町会に関して興味を持たないというか、加入がゼロなんていうところが随分ありました。ところが、イベントを始めた今年からマンションの方たちが町会に加入したいというお話が随分増えまして、私の町内でも20世帯ぐらい新規加入がありました。これも町内皆さん一丸となって努力しているおかげだと思っておりますが、

何しろイベントなくしては町会に加入がなかったと非常に感謝しております。

○地域活動推進課長 久しぶりのイベントを契機に加入が増えたというお話を頂きまして、ありがとうございました。

事前にいろいろお話を伺っている中で、渋谷区の方から、新しいイベントを手探りでやっていますというお話を頂いたんです。渋谷区の方からその辺りのことを御説明いただければと思うんですが、よろしいでしょうか。

○渋谷区 渋谷区町会連合会事務局、鬼沢です。

新しいイベントというお話なんですが、まず、渋谷区では、平成29年4月以降、地域活性化、町会加入促進のための事業について各町会年間20万円の助成をしています。この助成制度があるというのを毎年毎年町会長さんに要綱を配付したり周知しているんですが、事務局のほうの能力が足りないのか、あまり認識されていなかったんですね。利用する町会が半分あるかなぐらいのところだったんですが、今年に入って、町会長さんを中心に、役員さんでもということで、渋谷区町会連合会のLINE公式アカウントを開設して登録していただきました。このLINEに入ると、例えば区の町会連合会の町会長会議のお知らせ、町会掲示板に載せているチラシがそこを見ると全部見れる。その中にこの助成金の制度がありますよというの載せさせていただいています。もちろん関東大震災の補助金についても載せたり、いろいろなことをしています。そうすると、事務局のほうに、こんな補助金を使えるのかというお話が結構来て、御相談に乗らせていただいています。

そんな中で、本当に助成金をきっかけにいろいろなところの町会で新しい事業が始まっています。今までコロナで中止していたところで、祭礼、神社のお祭りも久しぶりにやっているんですね。そんな中で、お祭りで子供が集まって、それだけじゃもったいないので、その夜に町会独自で子供を対象にした何か行事がやりたいというような相談が事務局に来ます。今年新しくやっているのがバルーンアートとかキャンドルアート、子供の模擬店を町会独自でやったらどうなのという話をして、3町会ぐらい補助金を使ってやっています。

また、親睦のバスツアーなんかでもこの助成金を使えるのですが、バスツアーは今年の3倍に増えております。盆踊りなんかで言うと、今年もやはり飲食は中止にしていますが、参加の方は、推定なんですけれども何万人という規模になって非常に多くて、町会の方たちはうれしい悲鳴を上げているところです。今後も餅つき大会がコロナで——今までは、つきたい人がついて、そのついたお餅をみんなに分けてという形だったんですが、今年はコロナで、手をついたお餅をみんなに分けてというのができなくて、お餅は餅つき

機を使ってとか業者さんについてもらったのを届けてもらってと。ただ、子供たちにお餅つきの体験はさせたいということで、お餅つき用のお餅を準備してペッタン、ペッタン、食べないような形でやったり。そういうようなことをこれから12月、1月にかけてやる町会が多いようです。

本当にこのコロナの間我慢していたところがあって、こんなことを町会長の前で言うのはなんですが、町会さんもいろいろ入念に準備ができて、話合いとか入念にできて、思い切った新しいことができているのかなというふうに渋谷区では感じています。ちなみに、今年度は今のところ38件、こういうイベントのための助成で600万円ほど使っています。もちろんこの助成を使っていない事業もたくさんあるので、かなり渋谷区では地域イベントが増えているかなというところですよ。

○地域活動推進課長 渋谷区さん、ありがとうございました。

ほかの区市町村の方で何か新しい取組をこのコロナ禍明けからやり始めたところはどこかございますか。今の話もそうですし、先ほどの文京区からの話もそうですけれども、区の補助制度なども活用しながら取組をやっていますという話も頂きました。ありがとうございました。

話はちょっと替えますけれども、狛江市さんからお話を頂いている中身で、今はいいお話が続いていて、私たちも再開して非常にうれしいなと思っているんですが、一方で、再開するに当たって、なかなかその水準まで戻すことが難しいというお声もありました。特に担い手不足が引き続き課題になっていますけれども、従来行っていた事業がなかなかできないところで悩んでいらっしゃるやったり苦勞されているような町会・自治会もあるというお話を頂いております。その辺りのことを狛江市さんからお話いただければと思います。よろしいでしょうか。

○狛江市 狛江市の佐藤です。

市内の各町会・自治会において、コロナ以前に実施していたイベント等も徐々に再開はできております。町のにぎわい、それから顔と顔の見える地域の関係づくりが再開できていることを联合会としても大変喜ばしく思っております。一方で、コロナ禍以前の事業実施に苦慮している状況もあるのが現状でございます。この詳細につきまして、事務局が来ていますので事務局から話をさせていただきます。よろしく申し上げます。

○狛江市 狛江市町会・自治会联合会事務局の狛江市地域活性課、高橋と申します。事務局より御説明いたします。

狛江市内の町会・自治会の状況につきましては、会長がお話ししましたとおり、コロナ禍以前の規模で再開できている町会が多い一方で、コロナ禍の丸3年、会員からの会費の徴収もストップし、いわば休会状況となっていた町会さんが二、三ございまして、そちらの町会につきましては活動の再開に苦慮しているというケースがございます。

理由といたしましては、主に役員の方の高齢化、担い手不足が挙げられるところでございます。役員の方々も3年間交代等も行わず続投されていることが多く、その間、高齢化、あと体調等の御都合などで役員の方が一気に複数人退任せざるを得ないような状況が発生し、町会活動の再開以前に役員の確保に苦慮されている、迫られている町会の御相談、お話等を伺っております。

直近の連合会の会合の場で議論になりましたケースといたしましては、従来、同じ学区域の一部の町会で合同で行っていた地区運動会を再開させたいが、担い手が足りず、従来は参加していない同じ学区域内の町会にぜひ協力してほしいというお話がございましたが、お声がけした町会もなかなか新しいことを始める余力はないということで、残念ながら協力は難しいというお声がございました。

また、そのような状況がある中、町会の会則を見直して、役員定数の削減を行うなど、町会の、現状に合わせて存続可能な方法を前向きに検討され、工夫を凝らされているというようにお話も聞こえてきており、狛江市町会・自治会連合会といたしましては、町会・自治会の皆様が、自分たちができる範囲で活動をどのように続けていけるかということに悩みながらも御尽力されているという状況を伺っているところでございます。

狛江市からは以上でございます。

○地域活動推進課長 狛江市さん、ありがとうございました。

この辺りの関係で何か、うちの地域はこういうふうに工夫をされていますよというお話ですとか、なかなか再開ができないとか、難しくなっている町会・自治会がありますよという御発言等あればお聞かせいただきたいんですが、どなたかございますか。

○練馬区 練馬区町会連合会全体というよりも、今年、私の西大泉連合町会で、約2,000世帯のところ、ずっと盆踊りや学校のお祭りをやっていたんですが、ここ4年の間でなくなってしまったんですね。けれども、皆さんが何かやりたい、何かやりたいという話がありました。うちの町会にまだ30代の事務員がいるんですが、その人が「会長、人手がない、人手がないと言っている割にいっぱいあるじゃないか」と言い出したんです。何ですかといったら、うちには小学校が3校と中学校が1校で、4校あるんですが、そこに学

校のPTAだとか応援団とか、おやじの会だとか、こういう会があるでしょうと。その人たちには何で声をかけないんですかという話があったんです。

そこで、その人たちに声をかけて集まってもらって、盆踊りはやらないけど、何とか子供たちを対象にお祭りみたいなのをやろうよと言ってみましたら、いや、お祭りはテキ屋さんが来て焼きそばを作ったりいろいろなことをやるから、ああいうのは、キッチンカーを頼めばいいじゃないかと言われました。それでキッチンカーも頼んで、底力を使わせていただいてやったんです。

そうしたら何人集まったと思いますか。やりたいという人、応援するという人が150人集まりました。その人たちが自分たちと一緒に計画して手伝って、事前の準備をやって、最後は後片付けも全部やってくれたんです。だから、盆踊りをやらなくたっていいよ、これで。来年もやろうよという話になりまして、こういう形で立ち上がったんです。この12月で反省会をしたいと思っているんですが、まさか、人がいない、いないと言いながら、2,000世帯の中で150人もそういう人たちが来てくれて、子供たちのためにゲームをする。子供たち対象のゲームとか、けん玉とか輪投げとか6つぐらいあったんです。そういうものも含めて全部その人たちがやってくれたので、だから、人手がないとか人手があるではなくて、よく考えてみると、そういう力があるのだと思いました。

みんなに案内したら、次から次と、やります、やります、やりますと16団体も集まってくれたんです。非常にうれしい悲鳴なんですけれども、盆踊りじゃなく、子供たちが楽しんで一日やってくれればいい。

学校の校長先生が見に来てくれて何と言ったと思いますか。小学校の校長先生が、「うちの子供がここに来ているけど、あんな子じゃなかった」と言うんです。そこで小学校6年生ぐらいの子供たちが輪投げとか一生懸命お手伝いしているんです。ああ、やっぱりこれもすごく必要なことなんだなと。校長先生も、「これはすごい、ぜひこれからもやってもらいたい」と言われたので、来年もぜひこれはやりたいと思っているんです。人がいない、人がいないでやっていましたけど、そういう人たちを探してみると地域の人がお手伝いしてくれるんですね。これはものすごく大事です。

だから、地域の人や学校の子どもたちと町会が結びついていくことは、悪い子供たちもいないし、子供たちにもいいし、地域社会にもいいし、お年寄りに対してもいいということを実感しましたので、私は、これは盆踊りの代わりに来年からもずっと続けていくという決意でやっていきたいと思っています。

○地域活動推進課長 練馬区さん、ありがとうございました。以前の御発言の中でも、おやじの会とか地域の様々な子供会を含めていろんな団体の力を借りられましたというお話も頂いて、参加者だけでなく、協力いただく方が広がったというお話だったので、すごくいいお話かなと思っております。

また、このコロナ禍の中での大きな変化としてはデジタルの活用が進んだことも一つ大きなことかなと思うんですが、台東区の方からデジタルツールを使って町会の運営が変わりましたというお話も事前にお聞きしています。その辺りの御説明を頂ければと思います。よろしく願いいたします。

○台東区 台東区町会連合会の事務局（倉片）でございます。

私からコロナ禍における活動継続の工夫について、台東区の町会の例を紹介させていただきます。このアンケートの設問の選択肢にもありましたが、電子ツールを活用して直接会う機会を減らしたり、ホームページ、SNSなどを通じて会員向けの情報発信を始めた町会さんですとか、あとは密を避けたりする工夫をしながら活動の継続を行っていたという事で幾つかの町会から伺っております。

今日御紹介させていただきますのは、東京都の地域の底力発展事業助成を活用してデジタル化の取組を進めた例でございます。こちらの町会では、令和3年度にまずデジタルの活用について町会で何ができるかという講習会等を助成金を使って実施されています。4年度には実際にデジタル機器等の講習会を実施ということで、2か年にわたって底力の助成金を活用されています。コロナ禍において対面で行うことを躊躇したり制限されたりする中で、効率的な役員さんたちの連絡手段とか会議の開催方法の検討など、どうしていけばいいのかということを検討されていたそうです。役員間での情報共有を進めるために、先ほども例で出ていましたけれども、LINE等を使うということで、LINEの機能の中にグループLINEというのがありまして、その導入を決めたそうです。

ただ、やはり電子機器、スマホ等を使うことに当たっては結構高齢の役員さんからかなり難色を示されたというふうに聞いております。スマホ自体の操作もそうですし、アプリへの抵抗というののがかなりあったということで、LINEは非常に便利だということを理解してもらうために、まずスマートフォン自体の操作の講習会を親切丁寧に行ったというふうに聞いています。そこで抵抗感とかハードルを下げてからLINEの講習会を次に実施したと伺っております。一度ハードルを下げて、LINEにこういう機能があるよとかいうことで使い始めをされたと。実際に使い始めたら、抵抗感のあった役員さんが結構



グループLINEの中のトークに積極的に参加をされ過ぎてちょっと困ったこともあったというふうに町会長さんから伺っていますけれども、非常に簡単に使いこなせるようになられたと伺っております。

今では、グループLINEだとか、そういったアプリの機能であるとか特徴を十分御理解されて、会議日程の調整ですとか様々な町会内の情報共有に役立てていると伺っております。それまでは恐らく電話だとかメールで役員間の連絡はされていたと思うんですけれども、LINEを使うことによって、より円滑に調整ができるようになりましたというふうにお話をされておりました。

また、底力の助成金を活用してプロジェクターとかスクリーンを購入されております。コロナ禍では密を避けるために、定期総会を開くときに会場を3つに分散して、同時中継というんですか、Zoom等をつないで開催された。そういった工夫をされたというふうに伺っております。今は、そのプロジェクター等については、いろんな講習会、デジタルに関する講習会とか防災に関する講習会にも活用していますよというお話がございました。

なかなかハードルが高そうなイメージの町会のデジタル化ですけれども、コロナがきっかけではありましたが、東京都の支援も充実していたところでデジタル化の一步を踏み出したのかなと思います。町会長さんがおっしゃっていたのは、一気にデジタル化を進めるにはかなり抵抗もあるし、覚えるのも大変ということで、今後もデジタル化を進めるに当たっては徐々にできるところから進めていきたいというふうにお話をされておりました。

台東区からの紹介は以上でございます。

○地域活動推進課長 都のスマホ教室などを活用いただきながら、LINEなど、情報共有などを進めていただいているという御発言でした。ありがとうございました。

今回様々な区市町村からこのアンケート集計結果の詳細についてお話を伺いました。ありがとうございました。ちょうどコロナが明けて、いろいろ工夫をしながら様々な地域の活動が再開されたというお話を聞いて非常によかったと思います。事務局からは以上となります。

○荒川区 すみません。1点質問なんですけれども。

○地域活動推進課長 どうぞ。

○荒川区 私は荒川区の戸叶と申します。

先ほど、各地区の会長さんから御意見があったんですけれども、5類移行後、正直、お祭りだとか祭礼だとかもろもろ増えてきたことは事実なんですけど、荒川区は大きいお祭り

が4つ、それから、町会の地区連合会のほうで青少年対策地区委員会のお母さんやお父さん方と一緒に各地区のお祭りをやっております。ただ、秋口になって東京都からの意向で、保健所予防課が感染症対策のために、縁日だとか模擬店だとかに対してテントごとにポリタンクを用意して手を洗いなさい、それから、焼きそば、フランクフルトをやるときはごみや虫だとかが入らないようにちゃんと横幕をきなさいということを上から目線で言うてくるんですよ。

ポリタンクを用意したり横幕を用意したり。荒川区は120町会ありますけれど、70世帯の小さい町会もあれば、4,000世帯の大きい町会もあるんですよ。そうすると、大きい町会なんかは20張ぐらいのテントを張って、そのテントごとに手洗いを置きなさい、横幕きなさいという、すごい予算が今まで以上にかかるわけです。小さい町会でも独自の縁日だ、模擬店だとかやる町会もありますから、そういう点からいっても、昨日も荒川区の連合町会長会議があったんですけど、東京都からの意向で、感染症対策のためとはいえ、お金のかかることだから、荒川区の保健所にどうかならないのか。例えばポリタンクを貸出しにしてくださいとか、横幕をメッシュで作ったほうがいいとか。それには予算がかかるから、そういう点からも、やっと5類移行で祭礼や模擬店や夜店が戻ってきたのに、またそこで、もうそんな面倒くさいんだったらやらないほうがいいかというような意見が出てきたことは事実です。各区の方々、各市の方々も祭礼だとか模擬店だとかこれからやるとは思いますけど、相当な予算がこれ以上かかるとは思いますので、その点も御留意していただければと思いますし、東京都もその点も考えていただければなと思っております。

○地域活動推進課長 荒川区さん、ありがとうございます。区の保健所からの指導ということですね。ポリタンクでの衛生ですとか、横幕を使った上でちゃんと区切るようにという指導が入ったということですね。その事情はこちらで把握をしていないので、それがそうになっていますよ、なっていませんよという話は今できないんですけども。コロナ感染症が5類になっても、一部感染対策は継続いただいている局面はあると思うんですね。例えばマスクについては、今はする・しないに関しては任意になっておりますけれども、人と多く接する場ですとか、特に満員電車も含めて、そういうところはマスクを引き続き着用いただくことを推奨していたり、その流れの中で、縁日、人が多く参加する行事に関しても、特にちょうど秋口、インフルエンザとコロナが同時に流行したところで感染対策をできる限りしっかりやってくださいという御依頼の中の延長線上だったのかなと思います。

事情を確認できないので、ちょっとこちらで具体的な発言は差し控えますが、底力の助成の中でもポリタンクですとか横幕を含めての補助とかもできますので、そのような今ある底力の助成などもうまく活用いただきながら必要な対策などもしていただいて、せっかくお祭りを再開いただいたので、それがうまくできるように工夫しながらやっていただきたいというふうに思います。こちらも保健所に確認をしてみます。ありがとうございました。

○座長 皆様、活発な御発言、ありがとうございました。そろそろお時間でございますが、この辺りでまとめさせていただきたいと思います。たくさんの町会・自治会連合会の会長さんあるいは事務局の方から、コロナ5類移行後、活動が再開している。いろんな工夫をしながら拡大したり、新しいことに取り組んでいらっしゃるというお話を頂きまして、本当にありがとうございました。

また、一方で、各地の事情により御苦労されているという御発言もありました。こちらにつきましては、私どももお手伝いできることがあればお手伝いしていきたいと思っております。

また、そのような中で、コロナを経たことによる新しい取組ということで、デジタルの活用ですとか、さらに、先ほどもありましたが、PTAやおやじの会——私もちょっと前までおやじの会に入っていたんですけども、そういった地域の新たな力を使うような試みもされているということです。これをさらに広げていくまでにはまだまだいろんな課題があるのかと思いますけども、そういったこともされていることをお聞きして大変心強く思ったところでございます。

今後とも町会・自治会の皆様には地域コミュニティの中核として様々な活動をしていただきたいと思っております、私どももぜひいろいろなところで連携をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上でございます。

では、最後に吉成副座長から本日の感想ということで、まとめのコメントを頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○副座長 それでは、副座長を務めます東京都及び中野区町会連合会会長の吉成でございます。

本日は、地域活動に関する検討会に御参加いただきまして、また、コロナ5類移行後の町会・自治会の状況など様々な取組について活発な発言をありがとうございました。

先ほど江戸川区の関口会長からもお話がありまして、この検討会は東京都と打合せをしまして、そのときの問題等を検討する大事な、本当にいい会なんですね。今回の検討会はコロナ5類移行後の地域活動のアンケートを用いての検討会でありまして、多くの町会・自治会が活動を再開し、また、イベントも盛況であるというお声が多くありました。様々な工夫によりコロナ禍を乗り越えてきた皆様の御尽力のたまものだと本当に思っております。

今日は、LINEなどのデジタルツールを使った連絡、情報発信等、コロナ禍での工夫を生かして各地域で取り組んでいることをお聞きし、大変勉強になりました。アンケート結果では、今日話に出なかったことも含め、各地域での具体的な状況や取組が取り上げられていますので、持ち帰ってもらってこれからの活動の参考にしていただければと思います。私も本当に参考になりました。

今日はお疲れさまでした。

○座長 吉成副座長、どうもありがとうございました。

それでは、これもちまして令和5年度第2回東京都地域活動に関する検討会を閉会とさせていただきます。滞りなく会を運営できましたことにつきまして厚く御礼を申し上げます。

また、次回のこの検討会の開催につきましては、現時点では未定ではございますが、決まり次第御連絡をさせていただきます。よろしく申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時37分閉会